

今回は、テーマの公募を行い、コロナ禍において導入が進んだテレワークをテーマに、課題を「吹抜けを活かし、ブルックリンスタイルでまとめるテレワークスペースのある住まい」としました。過去の課題に比べ立体的に空間を捉える必要がある難しい条件でしたが、完成度の高い応募作品が多く、嬉しい驚きとともに受賞作品の選出に苦労しました。

一方、作品の中には規定に反したものもありました。提出データ形式の違い、データサイズのオーバー、指定以外のデータの提出などが見られました。このような作品は、出来にかかわらず採点対象外とせざるを得ないため、特に注意してください。再度問題をよくチェックし、作品を提出しましょう。

基礎課題では、モデリングで大きなミスをしている作品はありませんでした。図面との食い違いをはじめ、テクスチャの設定、配布モデルの読み込み、太陽光や光源の設定、指定アングル、あおり補正などの要求条件を満たしていないものは減点されています。基礎課題で配置してはいけない、指定外の機器（冷蔵庫・TV）やウインドトリートメントが目につきました。まずは問題をよく読み、要求条件を理解した上で課題に取り組むようにしてください。当試験サイトには、テキストをはじめ各種教材が用意されていますので、ぜひ参考にして本試験の理解を深めてください。

応用課題では、ブルックリンスタイルにふさわしいインテリアエレメントの配置が決め手となりました。テレワークに対する新しい試みや、吹抜けを活かしたインテリアの提案も期待されました。TV ボードやブラインドが確認できない作品もありました。要求条件にある項目は全て採点対象になるので、確認できるように作品を組み立てる必要があります。タイトルも重要な要素ですが、今一つインパクトがないものが多くみられました。文章が多く言葉に頼っているもの、逆に説明が足りていないものも目立ちました。英語表記のスペルミスも多く見られたので、事前によく確認してください。コンセプトや各パースの説明は簡潔であることが求められます。イメージ画像を利用して、提案書全体に表現したい雰囲気や伝わるようにすることが重要です。過度の装飾は全体に落ち着きのないものになるので、装飾的表現は最小限にとどめましょう。

提案書は、以下が基本となります。

- ・インテリア計画だけでなく提案書も含めたスタイルの統一をはかる
- ・パースは、代表するものを大きく扱い、他は小さく抑えてメリハリをつける
- ・余白や目地などを効果的に使い、すっきりとしたレイアウトにまとめる
- ・文字は、テーマに沿ったフォントやサイズを選ぶ
- ・文章は画像の上に配置せず、読みやすくなるように工夫する

金賞の作品は、課題の意図をよく理解し、ハードなブルックリンスタイルの中に、温かみのある子育て空間を実現し、ブルーを基調とした色彩計画も見事でした。文字フォント、サイズ、バランスなどが上手く構成されています。銀賞の作品は、画面を大胆に 3 等分し、構成要素をリズムカルに配置しており、密度の高い作品となっています。銅賞の作品は、インテリアスタイルが統一され、すっきりと落ち着いた提案書に仕上がっています。銀賞、銅賞作品とも、文字フォント、サイズ、バランスなどにもう少し工夫が欲しい。

回を重ねるごとに出来栄の良い作品が多くなり、採点基準が当初より厳しくなった感がありますが、このレベル向上に少しでも当試験が役立ったのであれば、嬉しい限りです。当試験サイトにある表彰作品なども参考に、今後もより質の高い作品を模索して頂ければと思います。